

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



# 「たい」のあられる時津小

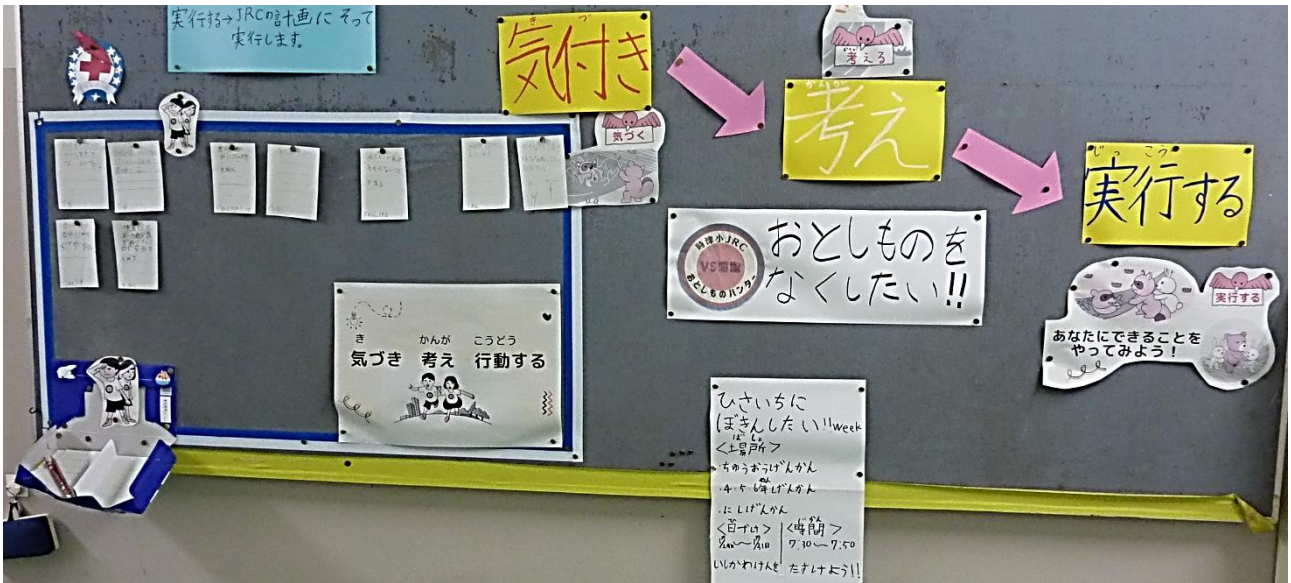


↑こちらからも↑

令和6年2月2日（金） 発行人：校長 森内 秀学

## 学校のエンジン、絶好調！

学校は誰が動かすのか…。校長や教師集団のイメージが強いことでしょう。いえいえ、時津小のエンジンは、子どもたちなのです。



上は、本紙面にもたびたび登場する JRC（日本赤十字）委員会の掲示。気づき、考え、実行するまでの過程が見て分かるよう工夫してあります。

左側は、「気づき」のコーナー。左下の箱には、「気づき」を書くアンケート用紙が入っています。誰でもそれに書いて、上に画びょうで貼ることができます。

真ん中は、「考え」のコーナー。委員会の子もたちが、「気づき」のアンケートから、落とし物をなくす取組や、被災地に募金する取組をすることに決めたことが、ポスターとして示されています。ひらがなで書いているのは、1年生にも分かるようにするためです。

そして、右側の「実行する」コーナー。先の取組は既に実行しているところですが、みんなも同じように、気付いて考えたら実行に移してみようと促しています。

私はこの、子どもたちの声をきちんと取り上げていく仕組みや、その過程を示す仕組み、そしてそれを実行に移していく仕組みを、子どもたち自身が考えて実践しているところが、大変すばらしいと思っています。まさに、時津小のエンジンは、子どもたちですね。



### 3年生が、代表委員会にデビュー

6年生が中学校の入学説明会に行っている間、ひそかに行われた代表委員会。議題は、「6年生を送る会」でした。初めて参加した3年生は、緊張しながらも学級の意見を伝えようと一生懸命でした。こうして、少しずつ成長していきます。